

第3回 広域連携で変わることも変わらないこと

城里町水道事業から「城里町の水」や「城里町水道事業」についての情報を発信する「しろさと水だより」、第3回は、城里町水道事業が茨城県の推進する「広域連携」に参画することで、どのようなことが変わるのかについて、特集します。

ポイント① 水を「つくる」から「おくる」に！



県企業局の水戸浄水場（那珂市）でつくった水の受水

最も大きく変わることのひとつが、石塚浄水場と小松浄水場の浄水機能の廃止と、それに伴う茨城県企業局がつくった水の受水です。

水道管の延長が必要ですが、浄水場の更新費用や水をつくるために使う薬品や機械の費用に比べると、配水機能のみを残し、浄水機能を廃止する方が、支出を抑えることができます。

自己水源確保のため赤沢浄水場は残ります！

深井戸の地下水を水源としているため水質に優れ、揚水可能量も比較的多い赤沢浄水場は、引き続き浄水場として利用します。

水戸浄水場から距離があり、送水管の延長が極端に長くなるため、建設費や維持コストが高くなってしまふこと、また、平成27年度の建設で、比較的新しいこともあり、配水場化は行わない予定です。



石塚浄水場は、令和12年度までに連絡管の整備を行う予定です！

水戸浄水場

出典 茨城県水道事業広域連携推進方針_改訂版(別冊)
(一部加筆)

ポイント② より高度な浄水処理に！



浄水技術の向上で、より美味しい水に！

水戸浄水場は、石塚浄水場と同じ那珂川の表流水を水源としていますが、粉末活性炭の活用等により、臭気物質は低減化され、安全で安定した水がつけられています。

水戸浄水場の水はどんな味？

「水道カフェ」の利き水体験では、水戸浄水場の水をミネラルウォーターだと感じた人もいました。



那珂市にある水戸浄水場のようす→

「水道カフェ」とは？

身近だけど意外と知らない「水道」を知ってもらうための展示と、プチマルシェ「しろさとコラボ」、憩いの場をつくる「コミュニティカフェ」がコラボレーションしたイベント。令和7年1月に、城里町役場町民ロビーで開催しました。当日の様子は1分間の動画にしていますので、ぜひ御覧ください！



▲動画はこちらから

ポイント③ 窓口はそのまま！事故や災害への対応はより強化！



漏水や断水には、町駐在職員を中心に対応！

引き続き職員は役場に駐在するので、初期対応もこれまで通り行えます。また、企業局(県)が迅速に支援に回ること、従来より対応体制が強化されます。

減災対策の強化と被災時のスムーズな対応

県中央の管路の耐震適合率は7割を超える一方で、町は1割程度にとどまっています。広域連携により、幅広い人材と技術力を活用し、耐震適合率の向上にも努めていきます。

また、被災時には、茨城県・城里町といった区分けなく、ひとつの組織として対応できるため、より迅速な復旧活動が行えます。

水道料金は変わる？変わらない？

令和40年以降の事業統合を目標に、水道料金はこれまで通り市町村単位で決定します。

【問合せ】 城里町上下水道課（水道事業担当 ☎ 029-288-3114）